

オプション教材ユーカリ 暗唱長文集



●暗唱の手順 1 日分

・ 1 日目は、まず、**1**の文章を30回音読します。最初の数回はゆっくり正確に「てにをは」などを間違えないように読みます。

正確に読めるようになったら、ある程度早口で棒読みで、句読点などであまり息継ぎをせずに読んでいきます。

イスにきちんと座って読むと読みにくい場合は、歩き回りながら読んでもかまいません。

お母さんやお父さんは、読み方の注意などは一切せずにただ優しく褒めるだけにしてください。

15回ぐらいでもう空で言えるようになることが多いと思いますが、できるだけ30回続けて読んでください。

なぜ回数を決めて繰り返すかという、と、「覚えられたらよい」という目標でやっていると、暗唱の教材が難しくなったときに、「難しいからできなくなった」ということになりがちだからです。「決まった回数を繰り返す」という目標でやっていると、難しい教材になっても同じように暗唱ができます。

30回音読しても暗唱できない場合は、もう10回音読してください。

これでその**1**の文章が暗唱できるようになります。

それでもできない場合は、暗唱の自習はいったん終了してかまいません。また機会を見てやっていきましょう。

●暗唱が難しいときは

暗唱のような短い時間の学習は、夕方にやろうとすると忘れてしまうことがあります。また、毎日同じようにやらないとできるようになりません。できるだけ、朝ご飯の前などに、家族のいる中でやるようにしましょう。

そして、暗唱を毎日やるのが難しい場合は、暗唱の自習はせずに、読書の方に力を入れていってください。

●暗唱の手順 1 週間分

- ・ 1 日目に、**1**の文章を暗唱できるようにします。
- ・ 2 日目は、**2**の文章だけを同じように30回音読し、暗唱できるようにしておきます。
- ・ 3 日目は、**3**の文章だけを同じように30回音読し、暗唱できるようにしておきます。
- ・ 4 日めは、**1**、**2**、**3**の全部通して、10回音読します。すぐに暗唱できなくてもかまいません。
- ・ 5 日めも同じように、**1**、**2**、**3**の全部通して、10回音読します。
- ・ 6 日めも同じように、**1**、**2**、**3**の全部通して、10回音読します。
- ・ 7 日めも同じように、**1**、**2**、**3**の全部通して、10回音読します。すると、**1**から**3**の全部の文章が暗唱できるようになります。

●暗唱の手順 1 か月分

- ・ 1 週目に、**1**から**3**の文章を暗唱できるようにします。
- ・ 2 週目は、もう**1**から**3**はやらずに、今度は**4**から**6**の文章を暗唱します。
- ・ 3 週目は、同じように、**7**から**9**の文章を暗唱します。
- ・ 4 週目は、**1**から**9**の文章を全部通して、毎日4回ずつ音読します。
- ・ すると、1 か月で**1**から**9**の文章が暗唱できるようになります。

●暗唱の活用

・ 暗唱のコツをつかむと、自分の好きな本の1部を暗唱したり、英語の教科書を暗唱したりできるようになります。また、覚えるつもりがなくても、物事が頭に入りやすくなります。

●より詳しい説明は

より詳しい暗唱の仕方は、「暗唱の手引」(<http://www.mori7.net/mori/mori/annsvou.html>)をごらんください。

1地球は、水の惑星わくせいと言われるように、表面の七十パーセントが水でおおわれている。「湯水たみづのように」というたとえが使えるのは水の豊富な日本だけのようだが、誰でも日常的に接しているこの水が、実はきわめて不思議な性質を持っている。

2〇度で固体になり、百度で気体になる水は、地球の大きな循環を支えている。この支える力の秘密は、水が自在に形を変えるというその性質にある。環境かんきやうに合わせて形を変えることが、世界を潤うるす力になっっているのである。

3人間もたぶん、この水のように周囲に合わせて自在に形を変えることで、周囲を潤うるす力を持つことができる。

例えば、デベートたたかということを考えてみよう。欧米では、意見を闘たたかわせることによって相互の意見が進歩すると考えられている。**4**弁証法では、ある意見Aとある意見Bが対立することによって新しい意見Cが生まれると考える。

日本人は、これとは反対に対立を避ける。あたかも水のように、相手がAと言え、Aもわかる」と答え、相手がBと言え、Bも理解できる」と答える。**5**AもBも、仏教もキリスト教も、欧米では本来両立しないと考えられたであろうあらゆるものをのみこんで、深い湖のように豊かになっていったのが日本文化である。

6日本語のもともとの出発点にも、日本文化の水のような性質が発揮されている。日本は巨大な中国文化圏の辺境に位置していたために、中国からの影響を絶えず受けていた。**7**しかし、同じ立場にある他の多くの民族が、自らも漢字を採用するか、あるいは漢字という言葉

を拒否して独自の言語に留まるかどちらかの選択しか持たなかった中で、日本だけは長い年月をかけて、平仮名、片仮名、音訓読み、漢字かな交じり文という独自の創造的な受け入れ方を生み出した。

8この水のような性質こそ、これからの世界に最も求められているものではないだろうか。

自己主張ということは確かに大切だ。特に日本人は、相手に合わせすぎるといふ批判もある。**9**しかし、狭い地球の中で、岩や石のようにぶつかり合う個性だけが充滿じゆうまんしても、地球は息苦しくなるだけだろう。

水のように自在に形を変える柔軟さが世界を潤うるすとしたら、日本人や日本文化の水のような性質も、改めて見直す必要があるのではないだろうか。**0**

(言葉の森長文作成委員会 M)

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

理性的に生きる (暗唱長文2)

1「葉隠」に、次のような言葉がある。「武士道は死狂ひなり。分別出来ればはやおくるゝなり」。これは、何ごとも死に物狂いで取り組むことが大事で、取り組む前に思慮分別をめぐらすようでは、既然後れを取っているという意味だ。2この言葉だけを見れば、確かにそうだと気がするが、この言葉を述べた佐賀藩の武士、山本常朝は、当時五十代で、既に藩の役職を退き隠棲している身だった。つまり、死に物狂いが大事だというのは、常朝がそれまでの長い人生経験から得た理性的な言葉だったのである。

3理性的であることが必要なのは、第一に、人間は理性によって正しい行動が取れるからだ。私は昔、自分の使っているパソコンの電気が急に切れたとき、壊れたと思いあちこち叩いてみた。叩いていると何かの拍子に直る気がしたからだ。4すると、そばで見えていた父が、笑いながら私のパソコンの裏を見て、「コードが外れているよ」と言ったのである。私はそのとき、故障を直すのは、直したいという情熱よりもむしろ直すための理性だということに改めて気づいた。

5理性が必要な第二の理由は、理性というものは成長するものだからだ。民主主義は、意見の違いがあるとなかなかまとまらない。そのとき、ふと優れた人の独裁の方が能率がよいのではないかと思うことがある。6しかし、人類の歴史は、民主主義の否定が多く、戦争を生み出したことを教えている。民主主義に欠陥があるのではなく、私たち一人ひとりが正しい理性を持つことによって民主主義をよりよいものにしていくことが大事なのだ。そして、実際、世界の民主主義は、年々向上しているように私には思える。7それには、インターネットによって多くの人が正しい知識を得られるようになってきたことも影響しているだろう。これまでのように理性のない扇動に国民全体が動かされるといことが少なくなってきたのである。

99 98 97 96 95 94 93 92 91 90 89 88 87 86 85 84 83 82 81 80 79 78 77 76 75 74 73 72 71 70 69 68 67

8確かに、人生には死に物狂いで立ち向かわなければならぬ場面もあるはずだ。しかし、その熱い情熱の背後には、冷たい理性が控えているなければならない。9そう考えると、理性とは、理性そのものに価値があるのではなく、死に物狂いという行動をより力のあるものにするために必要なのだということがわかってくる。大事なのは分別だが、その分別とは、思慮のための分別ではなく、行動のための理性的な分別なのである。0

(言葉の森長文作成委員会 M)

1 流行という言葉の対義語は不易だ。時代の変化に合わせて変わるものがあると同時に、時代を通して変わらないものもある。

流行を意識することは、社会生活を円滑に行うために欠かせない。

2 例えば、遠く離れた場所に行くのに、今どき牛車を使う人はいない。もちろん、人力車も使わない。現代なら自動車が普通だが、環境への負荷を考えて、今後は自転車になり、やがて科学の進歩によってタケコプターのような交通手段になるかもしれない。

3 こういう外見の変化が流行だ。

流行の大切さについては、言うまでもない。特に、現代のようにIT技術の進歩が速い時期には、流行に乗り流行を活用することは一層重要になる。

4 例えば、今のIT技術の前線のひとつはソーシャルサービスだ。ネットによるコミュニケーションが日常化し、リアルな世界のコミュニケーションと同様に人間の社会生活を深く支えるものになっている。

5 しかし、だから、その普及に伴う弊害も当然ある。イギリスでは、ソーシャルサービスの広がりによって中学生が本を読まなくなつたと言う。テレビが初めて登場し普及したときも、一億総白痴化が叫ばれた。テレビゲームのときも、携帯電話のときも、家庭の中で多くの葛藤があつたはずだ。

6 しかし、そういう弊害を乗り越えなければ、新しい活用法は身につかない。流行の持つマイナス面に目を向けて過去にしがみつくのではなく、流行のプラス面を見て、その弊害を知恵と工夫によって克服していくのが、最も現実的な対応と言えるだろう。

7 不易とは、外見の変化にも関わらず、変わらない本質のことだ。例えば、牛車から自動車へ、自動車からタケコプターへという変化を考えたとき、変わらないものは、ある場所から他の場所への移動そのものであり、その移動に伴う周囲への配慮など、時代を超えて不変なものだ。

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

8 牛車の時代に、狭い道をすれ違ふ牛車どうして譲り合いがあつたように、タケコプターの時代にも譲り合いはある。これが不易だ。このように考えると、流行と不易とは対立するものではなく、むしろ流行があるからこそ不易があり、不易に貫かれていからこそ流行があるとも言える。

9 そう考えれば、不易と流行は、物の側にあるのではなく、人の側にあることがわかる。変化する状況に合わせて自分らしくあること、これが不易と流行を結びつける要なのではないだろうか。

0

(言葉の森長文作成委員会 M)

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

1 自信は、物事を可能にする。できたという経験は、更にできる経験を生み出す。

秀吉は百姓の子から出発し、いくつものチャレンジと成功と自信を積み重ねて天下人となった。明治維新の乱世にも、そのような自信と成功の相互作用で歴史を動かした多くの人物がいた。

2 勝海舟は、幕府の要人となるにつれて、多くの暗殺者から命を狙われるようになった。海舟を護衛する警備の武士が数十人、海舟の家を守るために派遣されたとき、海舟は次のように断つたと言う。**3** 「自分の仕事は天下の役に立つものなら、天は自分を生かすだろう。そうでないなら、何十人によって守られても死ぬときは死ぬだろう」

こうして、海舟は、幕末の動乱期を、家族と女中だけの無防備な家に起居し、徳川幕府から明治政府に移る革命の時期の政治を担ったのである。

4 大政奉還が行われ、幕府が瓦解し、明治の新政府になったとき、海舟は新政府の役職にもつくことになった。このことを福沢諭吉が批判すると、海舟はただ一言、「毀誉褒貶は他人の主張」とだけ言ったと伝えられる。

5 自分の行動に自信を持っていたからこそ、周囲からの脅迫や、他人からの批判に対しても超然とした自分の生き方を貫くことができた。自信が、人を大きくしていったのである。

6 しかし、自信は、しばしば自信とは似て非なる自慢に転化するところがある。自信は人間を大きくするが、逆に自慢は人間の成長を止める。

自分の過去の栄光にとらわれると、世界から目をふさぐことにより自分の優位を保つようになる。**7** それは、実力による自信ではなく、観念によって増幅された架空の自信と言ってよい。

では、人はいかにして健全な自信を持ち続けることができるのだろうか。

その方法は、ひとつには、より大きなものに対する謙虚さだろう。**8** 得た権力は自分のためにあるのではなく、民衆の幸福を実現するためにあるのだという自己反省を持ち続けるかぎり、自信が自慢に転落することはない。

9 人間は、褒め言葉には弱い。だからこそ、その弱さを上回るだけの大きな理想を持つ必要がある。その大きな理想とは、自分のための理想ではなく、他の人に尽くすための理想なのである。

（言葉の森長文作成委員会 M）